

昨年11月、全日本フェンシング選手権大会女子エペで準優勝に輝いた。2019年に次ぐ優勝は逃したが、「結果よりも場の雰囲気や圧倒されて自分のプレーをできなかったことが悔しい」と冷静に振り返る。「新しいスポーツに挑戦してみたいと思って」競技を始めたのは小学5年の頃。それから11年、いまや次世代のエースと期待される存在に。「相手の特徴を見極めて試合を組み立てるのが面白い。身体能力だけでなく、引き出しの多さや経験値が勝敗を左右します」。24年のパリ五輪を見据えながら、今春、法学部を早期卒業し、法務研究科に進学。スポーツ界の諸問題に法曹界から向き合い「アスリートが競技に集中できる環境づくりに貢献できたら」。目指すは、弁護士とフェンシング選手の二刀流だ。



全日本フェンシング選手権大会女子エペ決勝戦



剣やマスク、グローブ。「夏場はかなり暑いです(笑)」



©日本フェンシング協会/竹原修吾